

学科名 近代建築の遺産を訪ねて
 学習テーマ 中之島 西部コース
 実施日 2026年5月20日(水) 10:00~

中之島周辺は、代表的な近代建築遺産が集まる街です。大阪観光ボランティアガイドの案内で、近代建築の教科書的な中之島を訪ねました。

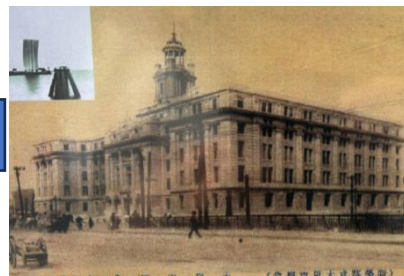
大阪市役所(1985)

様式：ポストモダン 設計：片岡安
 ・旧市庁舎(大正10年)は取り壊され、
 現在の庁舎は、4代目、昭和60年完成。

ポストモダンは、モダニズム建築の画一化され合理化された
 建築への反動として、装飾性や過剰性、歴史性、象徴性などの回復を目指したスタイル



現大阪市庁舎



旧大阪市庁舎

日本銀行大阪支店(1903)

様式：ネオ・バロック 設計：辰野金吾
 ・水戸藩・島原藩の跡地に郵政省の建物が建てられた後、日本銀行大阪支店となる。
 ヘルギー国立銀行をモデルにした洋風建築。

ネオ・バロックは、感情豊かで劇的な
 表現と豪華な装飾を特徴とする劇的
 表現を踏襲しつつ、現代的素材や機
 能性を取り入れたスタイル



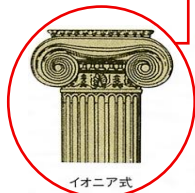
日本銀行大阪支店



ベルギー国立銀行

三井住友銀行大阪支店(旧住友銀行本店)(1926)

様式：南欧風+東洋意匠 設計：安井武雄
 ・南欧風の外観と東洋モチーフの融合
 ・外壁は、高砂市の黄竜山石。柱は、イオニア式の列柱。



イオニア式



コリント式



コンポジット式

代表的な柱の様式



三井住友銀行大阪支店



雨水を落とすための排水口



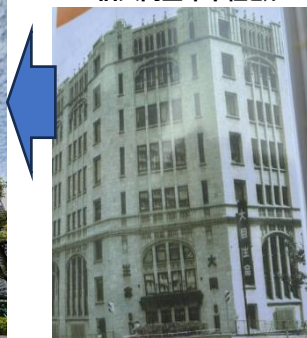
大同生命大阪支店(1993)

様式：ネオ・ゴシック様式 設計：ヴォーリス建築事務所
 ・旧館は、ヴォーリスが設計した旧本社ビル(1922)を立て替え。
 ・装飾的な部分は旧ビルの様式を引き継いでいるが、下層部の
 扇型の広がり新ビルより。

ネオ・ゴシック様式は、19世紀を中心に世界中で広まった建築の様式。
 伝統的なゴシック様式を現代の技術と美的感覚で復興させたもので、
 尖塔のように天へと伸びる垂直性や細長い窓、装飾的なモチーフが特徴。



現大同生命大阪支店



旧大同生命本社ビル

大阪市立科学館(1989)

様式：現代建築 設計：環境開発研究所

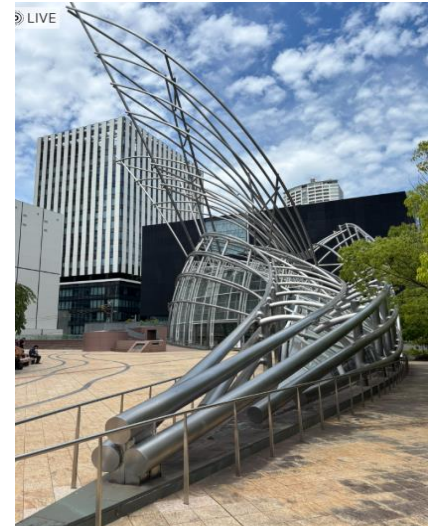
・プラネタリウムを中心とした現代的なデザイン。

楕円形の形は、太陽を巡る惑星の軌道を表している。

現大阪市立科学館



現国立国際美術館



国立国際美術館(2004)

様式：現代建築 設計：シーザー・ペリ

・地上は、巨大な竹のような金属フレーム
地下に展示空間をもつユニークな構成

大阪中之島美術館

大阪中之島美術館(2022)

様式：現代建築 設計：遠藤克彦

・黒いキューブ形の外観が特徴

内部は吹き抜けと白い展示空間の対比が美しい

・猫 SHIP'S CAT は、美術館のコレクションを守るための象徴的な存在。かつて、堂島川の荷物を積み下ろす舟入があった場所に位置し、蔵の米を守っていたとされる猫を採用。



ダイビル(2013)

様式：現代建築（旧館：ネオ・ゴシック+アールデコ）

・旧ダイビルは、ゴシック的垂直性とアールデコ装飾を持つ名建築。
再開発で外観を復元しつつ高層化。保存再生の代表例。

アールデコ様式は、1920年代から1930年代にかけて世界的に流行した、幾何学的で直線的な装飾美術のデザイン様式

現ダイビル

旧ダイビル



ダイビル本館に受け継がれる「猫と少女の像」

中之島地区は、明治の近代建築から、令和の現代建築に至る建築史を一気に体験できる街です。近代建築のネオ・バロック、ネオ・ゴシックなど教科書で感じ取れない装飾や威厳など実感できるとともに、ダイビルでは旧館外壁は復元とは思えないほど質感が高く、保存再生の意義を感じました。これらを通して、伝統的な建物をすべて現代建築に建て替えるだけでなく、近代建築の良さを継承して、建物が伝えてきた存在感を引き続き維持していこうとする意気込みが随所で見受けられました。まだまだ発展し続ける街であるため、耐用年数から古い建物は、取り壊される可能性はありますが、効率性のみ追求でなく、先人たちの想いを継承されていく様を見守り続けていきたいものです。